
海の家れもんが新商品をうpしはじめたようです(° °)

かがみん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海の家れもんが新商品をつpしはじめたようです(。。(

【Nコード】

N9164P

【作者名】

かがみん

【あらすじ】

夕飯食いながら思い付いた小ネタです。

ちなみに私は原作もアニメも大好きなんでアンチと思わないでね。

（前書き）

読んでも怒らないでね

由比ヶ浜の空は今日も真っ青だった。

「あれ……？」

長月早苗は海の家れもんの中を見渡して、首をひねった。

「イカちゃん居ないの？」

お目当ての女の子の不在に、残念そうな声になった。

「ああ。ところで、早苗」

と、給仕をしていた栄子が早苗にお皿を差し出して言った。

「姉貴が新しい料理をだすんだが、試食しないか？」

「ヤキ……ソバみたいね」

鰹節と青海苔と紅生姜がトッピングされた、いたって普通のヤキソバだ。

「ヤキソバなら前からメニューにあつたじゃない」

「ちよつと改良したんだ」

と、栄子は薦めた。

「まあ、いいけど」

早苗はヤキソバを食べはじめた。栄子の口許が微かに笑った。

「……おいしい」

千鶴は料理の名人だから、美味くて当然なのだが、このヤキソバは風味がいつもと違っていた。

「なにか特別な材料使ってるかしら？」

早苗は箸でソバを掻き回した。ヤキソバの具はキャベツ、豚肉、もやし、それから白い……

「い、烏賊っつ……」

弾力のある、方形に切られた烏賊の足。

「えっ……まさか……」

「どうだ、早苗。うまいだろ」「え、栄子。イカちゃん、今どこにいるの、ねえ!？」

青ざめた顔で問い詰める。

「さあね。わからん」

栄子のはぐらかすように言った。

「まさか……イカちゃんを……」

「ひよっとしてイカ娘ちゃん」(!?)

背後に千鶴がいた。日頃と変わらぬ笑顔で。

「また海に、帰っちゃったのかもね」

「ひっ……」

早苗の意識は暗転した。

そして。

海の家れもんの特製烏賊ヤキソバは、瞬く間に評判となり、繁盛していた。

その店を、廃人と化した早苗の虚ろな目が、いつまでも見つめていた……

(完)

（後書き）

なんかホラーというかカニバリズムになったかも……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9164p/>

海の家れもんが新商品をうpしはじめたようです(° °)

2011年1月9日01時33分発行